

2010年度 予算編成方針

I. 予算編成に当たって

2010年度教育・研究に関する年度計画書には、本学の目指す基本方針として「世界に開かれた大学」から、更なる展開として「グローバル・コモン」を目指し、その推進のためには、「知」の発信基地として存在し続けるための諸策を講じる必要があると示されています。

本学はこれを実現するために、制度改革等の推進を早急に図りたい。中でもグランドデザインの策定・推進の諸策は長・中・短期のロードマップを見据え、大胆に切り分けた課題に、果敢に取り組まなければなりません。

幸いグランドデザインの策定の課題である重点的キャンパス施設整備計画は、理事会等で多面的に検討が進められ、一定の結論を得ているので、財源の確保が重要な課題となりました。

翻って、昨年の国際的な金融危機から、世界が変わり、企業も変わり、今夏では、自民党から民主党に政権が変わりました。個人消費、設備投資等への日本経済への影響はまだ見えないが、最近の大学の定員割れ状況を始めとする、私立大学を取り巻く厳しい環境は依然として変わらないと思われまます。

本学の理念に基づいた展開を2010年度以降も予算に反映させるには、2009年度に継続してリスク回避を図りながらも、潜在的な財務余力の具現化を視野に入れつつ、理事会は以下の諸策を慎重に進める必要があります。

II. 予算編成上の主な内容

1. 制度改革等の推進

- (1) 制度改革の推進
- (2) グランドデザインの策定・推進
- (3) 研究体制の整備
- (4) 国際連携の推進
- (5) 大学院の充実
- (6) 教育体制の整備
- (7) 学生生活支援の充実
- (8) 戦略的広報の展開
- (9) 大学の社会貢献
- (10) 情報機能の強化

2. 人事計画

- (1) 専任教員（特任・客員教員含む。）任用計画に基づく採用
- (2) 職員の人事計画
- (3) 給与等の待遇

3. 財務計画

(1) 帰属収入

2010年度、学生生徒等納付金については、前年度に引き続き入学定員の1.15倍を見込んでおります。なお、学費以外の受託研究費、指定寄付研究費等の外部資金の受け入れ強化、文部科学省のグローバルCOE及び前年度に取得したG30等の競争的補助金の継続的な獲得及び受け入れ強化、資産運用及び施設の外部貸し出し等の多様な増収策による財源確保を継続的に目指し、帰属収入の安定的な確保を目指します。

(2) 消費支出

消費支出については、引き続き効率的な財政運営を行い、長期的な収支均衡を図ります。

- ① 経常的な経費については、2009年度予算をベースに2%のマイナスシーリングを基本として実施します。ただし人件費、業務委託費、公租公課は対象外とします。
- ② 政策経費については、重要性・緊急性を考慮して予算措置を図るが、2009年度予算をベースに3%のマイナスシーリングを基本として実施します。
- ③ ①、②によって得られた財源は、大型施設計画、グローバルCOE及びG30への財源の他に、新規案件及び計画変更等の詳細が期中で決まり、期中執行が理事会で決定された場合の資金として、予備費の増額分に充当します。

(3) 基本金組入計画

① 第1号基本金

2010年度に支出する土地、建物、構築物、機器備品、図書等の固定資産は取得後に組み入れます。組入対象資産の主なものは、駿河台C地区整備計画、和泉新図書館、生田第二校舎D館、中野キャンパス計画、農学部黒川農場整備計画等です。

② 第2号基本金

継続で和泉新図書館、生田第二校舎D館、駿河台C地区整備計画、中野キャンパス計画の建設資金を第2号基本金として設定します。

③ 第3号基本金

教育・研究振興基金、創立者記念奨学基金は積み立てます。

④ 第4号基本金

学校法人会計基準に基づき所定額を積み立てます。

4. 創立130周年記念関連事業の推進

以上